

菅虎雄 すけが ドイツ語教育者、能書家。元治元年十月十八日筑後國久留米生れ、昭和十八年十一月十三日没（六四—一九三三）。字高悦。號無爲、白雲、陵雲。明治二十四年帝國大學文科大學卒（獨文科一期生）。東京英語學校教員、淨土寺學本校教授、日本中學校教員、東京美術學校教育學教授を経て、二十八年第五高等學校ドイツ語兼論理學教授となり、翌年學友夏目漱石と五高に招いたことごとく知られる。二十五年第一高等學校教授に任ぜられ、翌年任官の儘、清朝政府の招聘により南京兩江（二江）師範學堂の教習として赴任。同地で書畫の名手李瑞清を知り書と以て往來、六朝の筆法を學ぶこと二年餘、その眞儀を會得するに至つた。二十九年歸朝、翌年から再び一高の教壇に立ち、前後二十餘年名物教授の名を ほしきまんに 擅す。知友に漱石の他、狩野亨吉、大塚保治がある。小説家菅虎雄の父。

また芥川龍之介『羅生門』（大正六年五月）二十三日阿蘭陀書房）を始め、山本有（二）西郷と大久保』（昭和二年七月）二十八日改造社）、阿部知二『風雪』（昭和十四年九月）二十六日創元社）等の題字にも筆を執つた。没後二十年に會つて一高同窓有志により『陵雲菅虎雄先生遺墨法帖刊行會聖法帖』（昭和四十七年十一月十三日 無爲菅虎雄先生遺墨法帖刊行會編輯）が出版せられ、初めその書の一部（百九十餘點）が纏められた。

